

～旺文社「第5回ことばに関するアンケート」集計結果～ 小・中・高校生 約10,000人が回答 「きれいな日本語を使おう」意欲高まる

教育出版の株式会社旺文社(本社:東京都新宿区、代表取締役 赤尾 文夫、以下旺文社)生涯学習検定センターでは、国語・数学・英語の主要3教科の基礎的な知識、技能を問う「生涯学習三検定(語彙力検定・計算力検定・英単語検定)」を2000年より実施し、既に累計で31万人の小・中・高校生が受検しています。

このたび、2007年度第2回(2007年11月～12月実施)の『実用日本語 語彙力検定』受検者に対して行った『第5回 ことばに関するアンケート』(有効回答数11,010人)の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

このアンケート調査は、2002年7月にもほぼ同内容で実施しており、5年間の変化を見ることができる興味深い結果となりました。

【アンケート調査概要】

実施時期： 2007年11月25日～12月10日

調査対象： 2007年度第2回『実用日本語 語彙力検定』の受検者(14,496名)

調査方法： 試験終了後、任意で回答(所要時間約5分)

有効回答率： 76.0%(11,010人)

回答者内訳： 小学生 = 66.6%(7,332人)、中学生 = 31.1%(3,420人)、高校生 = 1.7%(185人)、
その他 = 0.6%(70人)、無回答 = 0.0%(3人)
男子 = 53.4%(5,878人)、女子 = 46.3%(5,095人)、無回答 = 0.3%(37人)

【アンケート結果による分析(要点)】

今回のアンケート結果について、検定委員の宮腰賢先生(東京学芸大学名誉教授)にコメントをいただきました。ポイントになる点は下記の通りです。(詳細は次頁をご参照ください)

- 「きれいな日本語を使おう」とする意欲の高まり
- 「ら抜き」ことば容認へ傾き
- 「日本をイメージすることば」の欠如
= 焦点の定まらないわが国の現状

「ことばに関するアンケート」の結果を見て

東京学芸大学名誉教授 宮腰 賢

一万人を超える大規模調査

5年前の調査では、回答率47.3%、1,699の回答数でしたが、今回は、回答率76.0%、11,010の回答数です。「日本語」についての小学生・中学生・高校生の意識調査として、これほど大規模なものがなされたことは、たいそう、ありがたいことです。

きれいな日本語を使おうとする意識の高まり

今回特筆されるのは、ことばに関する関心が高まり、きれいな日本語を使おうとする意欲が高まったことです。「新聞やテレビで「日本語の乱れ」についての記事やニュースを目にしたことがある」は56.8%。「言いたいことが相手にきちんと伝われば、きれいな日本語を話さなくてもよいとは思わない」は60.2%。また、「ふだん、自分が言いたいことを相手にきちんと伝えられていると思う」は47.6%ですが、「ふだん、乱れていない、きれいな日本語を話しているとは思わない」は38.5%です。自己評価の厳しい点が健全です。

「ら抜き」による「食べれない・来れる」は定着

「食べれない」については、58.1%が正しい日本語であると答え、71.4%が使うと答えています。また、「来れませぬ」については、68.3%が正しい日本語であると答え、55.3%が使うと答えています。これらの数値の違いは、打ち消し表現のほうがよく使われるということなのか語彙レベルの違いなのかはわかりませんが、規範文法による指導がなされているにもかかわらず、日本語の大きな変化の流れにあって、「ら抜き」ことば容認のほうに傾きつつあるということでしょう。

なお、「ぜんぜんきれいだよ」については、使う49.1 43.9%、使わない47.9 53.4%。現在では、「まったく。まるっきり」の意の「程度の副詞」として使うのはまちがいで、「ぜんぜん～ない」の「呼応の副詞」として用いるべきだとの指導が反映したようです。

使いこなせない敬語

「先生もこの本をお読みしますか？」についての数値は前回とほとんど変わりありません。尊敬と謙譲とを取りがちがえているこの言い方を、使う14.1%、使わない83.9%で、望ましい結果のようですが、48.5%が正しいとし、48.6%がまちがいとしているのですから、敬語のしくみの基本が身につけていないから使わない、むしろ、使えないのだと見るほうがよいようです。敬語5分類の「敬語の指針」も出されていますが、敬語を使う機会に恵まれない小学生・中学生・高校生にとっては、敬語を身につけることがむずかしいようです。

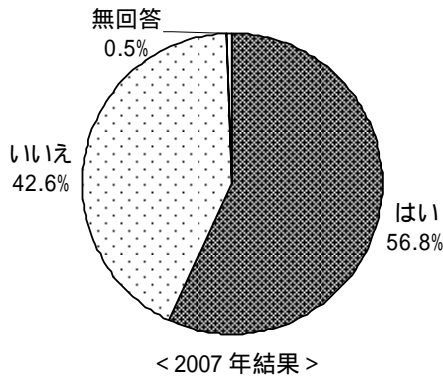
「これ」という日本をイメージすることばがない

前回「富士山」だけが18.2%で、二桁の数値を示しましたが、今回はかるうじて二桁を保った11.4%。2位は「和」の7.9%、3位は「東京」の5.7%。ベストスリーは前回の2位と3位とが入れかわっただけです。「ありがとう」が4位に、「こんにちは」が8位に、「おはよう」が28位に現れたのは、人と人とのつながりを大切にしようとする世相の反映で喜ばしいことですが、価値の多様化などといって、焦点が定まらず浮遊しつづけるこの国の姿が「これ」という日本をイメージすることばを子どもたちに与えていないのかもしれない。

【アンケート調査結果内容】

小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%になっていないものもあります。各項目の解説は、語彙力検定試験の実施機関である「生涯学習検定センター」が、宮腰先生のご意見を基に分析したものです。

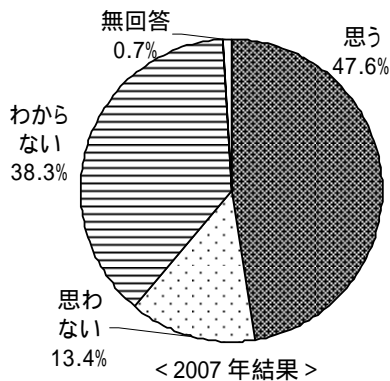
Q1. 新聞やテレビなどで「日本語の乱れ」についてのニュースを目にした事がありますか



	2002 年	2007 年
はい	52.6%	56.8%
いいえ	46.7%	42.6%
無回答	0.6%	0.5%

2007 年は「見たことがある」と答えた生徒が 56.8%となり、半数以上であった。また、5年前の 52.6%を 4.2 ポイント上回る結果となり、「日本語の乱れ」についての関心が高くなっていることがわかる。

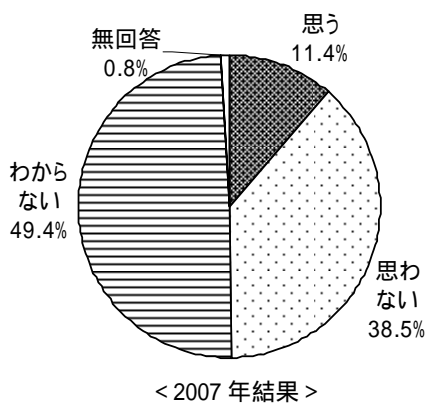
Q2. あなたはふだん、自分が言いたいことを相手にきちんと伝えられていると思いますか？



	2002 年	2007 年
思う	39.0%	47.6%
思わない	17.3%	13.4%
わからない	43.0%	38.3%
無回答	0.8%	0.7%

約半数の子どもたちが「自分の言いたいことを相手にきちんと伝えられている」と思っている。5年前の結果(「思う」39.0%)と比べ 8.6 ポイント増える結果となった。

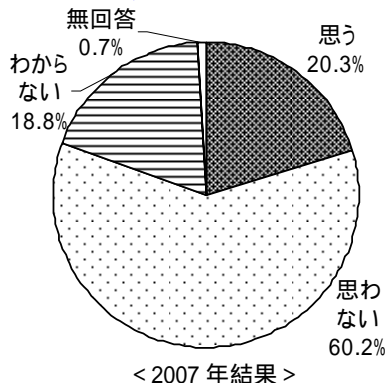
Q3. あなたはふだん、乱れていない、きれいな日本語を話していると思いますか？



	2002 年	2007 年
思う	8.7%	11.4%
思わない	49.4%	38.5%
わからない	41.0%	49.4%
無回答	1.0%	0.8%

2002 年調査では「話していると思っていない」(49.4%)が「思っている」(8.7%)より 40.7 ポイントも上回っていたが、今回は「思っていない」が 38.5%、「思っている」が 11.4%で、27.1 ポイントの開き。5年前と比べ 13.6 ポイント縮まった。Q2 の結果と合わせ、子どもたちは、正しい(と思われる)日本語で、自分の言いたいことをきちんと相手に伝えようという意識が高まっていると考えられる。

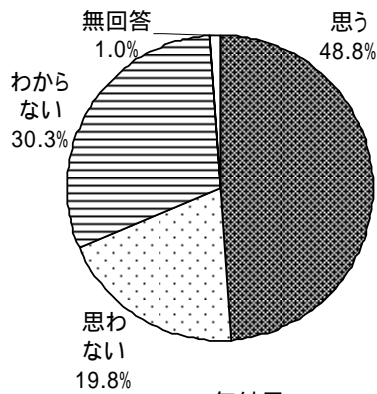
Q4. あなたは、言いたいことが相手にきちんと伝われば、きれいな日本語を話さなくてもよいと思いますか？



	2002 年	2007 年
思う	35.0%	20.3%
思わない	42.7%	60.2%
わからない	21.2%	18.8%
無回答	1.1%	0.7%

「そうは思わない」が 6 割を超えた。きれいな正しい日本語で話さなければならぬという自覚の表れであろう。2002 年は「そうは思わない」が 42.7%で、今回はそれを 17.5%も上回っている。

Q5. あなたは、日本語が乱れていない方が、言いたいことを相手にきちんと伝えられると思いますか？

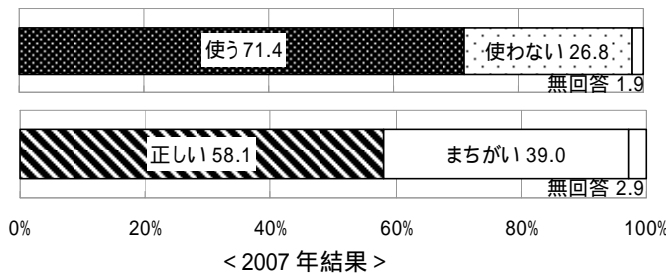


	2002年	2007年
思う	42.8%	48.8%
思わない	22.8%	19.8%
わからない	33.1%	30.3%
無回答	1.2%	1.0%

約半数の子どもが「日本語が乱れていない方が、言いたいことを相手にきちんと伝えられる」と思っている。次に多いのが「伝えられるのかわからない」で30.3%。これは02年の結果も同様で、「わからない」が2番目に多く33.1%であった。

Q6. 次の6つの文や語句について、A <あなた自身が使うか使わないか>、B <日本語として正しいか、まちがっているか>を選んでください。

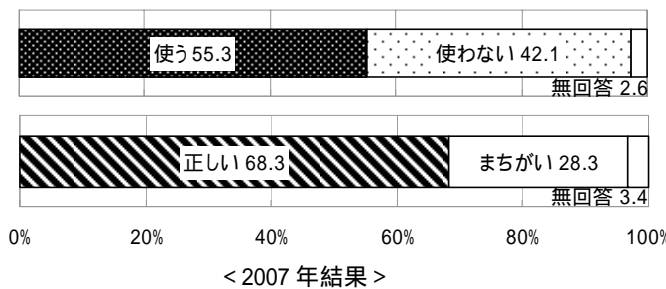
「こんなにたくさんは食べれない。」



		2002年	2007年
あなた自身は	使う	66.5%	71.4%
	使わない	31.4%	26.8%
	無回答	2.2%	1.9%
日本語として	正しい	61.4%	58.1%
	まちがい	35.6%	39.0%
	無回答	3.0%	2.9%

「使う」が7割を超えた。これは前回の66.5%を4.9ポイント上回る結果となり、ら抜きことばがますます定着してきたことが読み取れる。

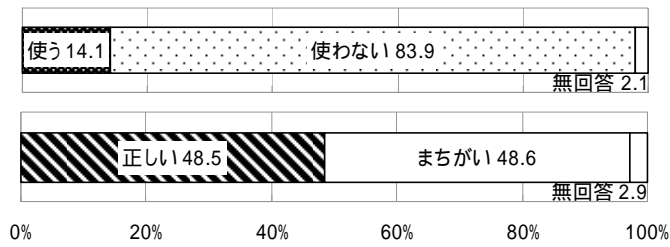
「朝5時に来れますか？」



		2002年	2007年
あなた自身は	使う	59.4%	55.3%
	使わない	37.6%	42.1%
	無回答	3.1%	2.6%
日本語として	正しい	70.7%	68.3%
	まちがい	25.1%	28.3%
	無回答	4.1%	3.4%

「食べれない」は「使う」と答えた率は71.4%に達したが、「来れます」は55.3%に留まった。一方で、「来れます」を正しいと答えた率は68.3%で、「食べれない」の58.1%を上回っている。2002年との比較では、「使う」「正しい」ともに比率が若干低くなっているものの、ら抜きことば定着の傾向を否定するものではない。

「先生もこの本をお読みしますか？」

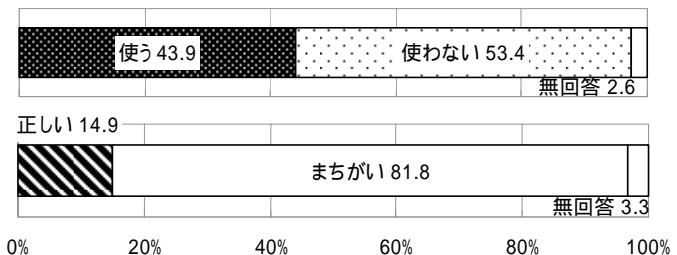


< 2007 年結果 >

		2002 年	2007 年
あなた自身は	使う	10.9%	14.1%
	使わない	86.6%	83.9%
	無回答	2.4%	2.1%
日本語として	正しい	48.4%	48.5%
	まちがい	48.4%	48.6%
	無回答	3.2%	2.9%

「使う」が 14.1%、「使わない」が 83.9%。「正しいか？」の問いには、「正しい」(48.5%)と「まちがい」(48.6%)がほぼ半々で、2002 年と同様の結果。敬語の使い方がはっきりとわかっていないからしない(できない)、と見ることができる。

「ぜんぜんきれいだよ」

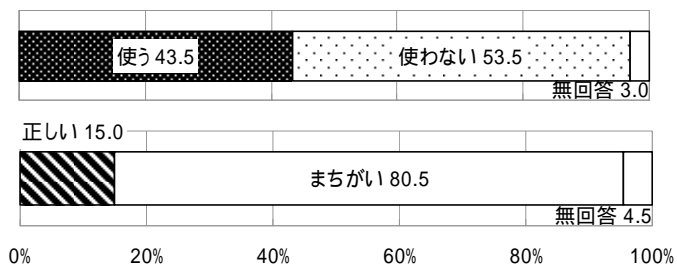


< 2007 年結果 >

		2002 年	2007 年
あなた自身は	使う	49.1%	43.9%
	使わない	47.9%	53.4%
	無回答	3.1%	2.6%
日本語として	正しい	17.7%	14.9%
	まちがい	78.6%	81.8%
	無回答	3.8%	3.3%

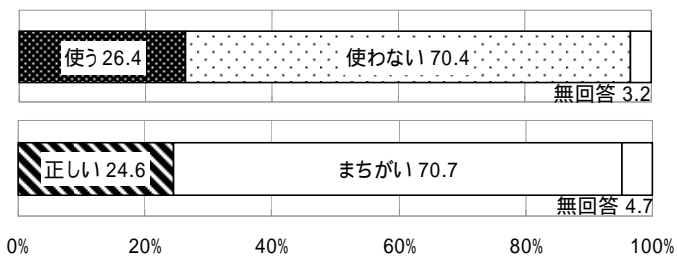
2002 年には、「使う」49.1%が「使わない」47.9%を上回っていたが、2007 年は逆転した。またこれを「まちがい」とする率も、2002 年の 78.8%から 3.2 ポイント増えており、誤使用の増加傾向は見られない。

「ドン引き」(2007 年のみ)



		2007 年
あなた自身は	使う	43.5%
	使わない	53.5%
	無回答	3.0%
日本語として	正しい	15.0%
	まちがい	80.5%
	無回答	4.5%

「がっかり」(2007 年のみ)



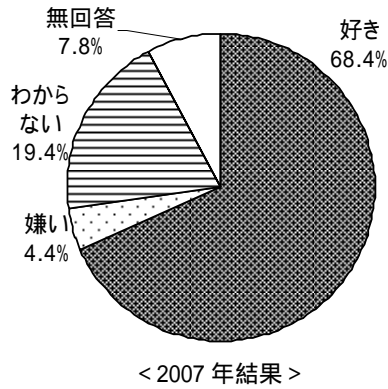
		2007 年
あなた自身は	使う	26.4%
	使わない	70.4%
	無回答	3.2%
日本語として	正しい	24.6%
	まちがい	70.7%
	無回答	4.7%

現在の一部の若者が使用している、いわゆる「若者ことば」とよばれるものから「ドン引き」を、ある方言が一般的に広く使われるようになったことばから「がっかり」を、代表としてそれぞれ取り上げてみた。

「ドン引き」については、「まちがい」が 80.5%であるにもかかわらず、「使う」が 43.5%ということから、まちがいとわかっていながら使っている子どもたちが多いことがわかる。

一方「がっかり」については、「使う」が 26.4%であることから、子どもの間ではあまり使われていないようである。しかし、「使う」26.4%・「正しい」24.6%、「使わない」70.4%・「まちがい」70.7%と比率がほぼ同じであることから、新しいことばについて、正しいかどうかということへの関心が少なからずあることがうかがえる。

Q7. あなたは日本語が好きですか？



	2002 年	2007 年
好き	62.4%	68.4%
嫌い	4.6%	4.4%
どちらでもない	27.8%	19.4%
無回答	5.1%	7.8%

約7割が「好き」と回答。「好きではない」と回答したのは、4.4%と少数。「どちらでもない」が19.4%となった。また、6%と若干ではあるが、2002年と比べて「好き」と回答した比率が増えている。

Q8. あなたが日本のことをまったく知らない外国人に、一つのことば(一語)で日本を紹介するとしたら、どんなことばを使いますか？ あなたが日本をイメージすると思うことばを、一つだけ挙げてください。(モノの名前や地名、人名など、何でもかまいません)。

2007 年			
順位	結果	割合	前回の順位
1	富士山	11.4%	1
2	和	7.9%	3
3	東京	5.7%	2
4	ありがとう	4.8%	新
5	平和	3.4%	6
5	寿司	3.4%	4
7	美しい	2.9%	16
7	こんにちは	2.9%	新
9	侍・武士	2.8%	5
10	和食	2.4%	新
11	島国	2.2%	6
12	素晴らしい	2.1%	15
13	緑・自然	2.0%	13
14	京都	1.9%	18
15	日の丸	1.8%	9
16	東京タワー	1.7%	19
17	四季	1.5%	19
18	日本語	1.4%	新
19	楽しい	1.3%	新
20	先進国	1.2%	新
21	豊か	1.0%	22
21	寺	1.0%	22
23	福田総理	0.9%	新
23	あいさつ	0.9%	新
25	着物	0.8%	11
26	歴史	0.7%	新
26	桜	0.7%	9
26	おはよう	0.7%	新
26	米	0.7%	14
26	小さい	0.7%	16

2002 年			
順位	結果	割合	前回の順位
1	富士山	18.2%	
2	東京	6.0%	
3	和	4.8%	
4	寿司	4.5%	
5	侍・武士	4.4%	
6	島国	3.8%	
6	平和	3.8%	
8	小泉純一郎	2.8%	
9	日の丸	2.1%	
9	桜	2.1%	
11	着物	2.0%	
12	イチロー	1.6%	
13	緑・自然	1.5%	
14	米	1.4%	
15	素晴らしい	1.1%	
16	美しい	1.0%	
16	小さい	1.0%	
18	京都	0.9%	
19	茶	0.8%	
19	東京タワー	0.8%	
19	四季	0.8%	
22	楽しい	0.6%	
22	豊か	0.6%	
22	寺	0.6%	
22	山	0.6%	
26	安全	0.5%	
26	黄金の国	0.5%	
26	狭い	0.5%	
26	箸	0.5%	
26	汚い	0.5%	

1位は「富士山(11.4%)」、2位が「和(7.9%)」、3位が「東京(5.7%)」であった。順位が入れ替わっているが、02年の調査においても「富士山」「東京」「和」がベスト3という結果。

今回の調査で特筆すべきは「ありがとう」「こんにちは」のようなあいさつが入っていたことである。日本語のコミュニケーションを大切にする子どもたちの姿勢が見て取れる。

人名は、2002年には8位に「小泉純一郎」、12位に「イチロー」が入っていたが、今回ベスト30の中では、23位に「福田総理」がランクインしているのみであった。

【生涯学習三検定について】

生涯学習検定センター(旺文社が1999年9月に検定試験の実施を目的に設立)は、実用的な日本語の語彙力を総合的に測定する「実用日本語 語彙力検定」、算数・数学の計算力を測定する「計算力検定」、英語の基礎的な単語の知識を測定する「英単語検定」の『生涯学習三検定』を開発し、2000年7月から毎年2回(7月・12月)実施しています。これらの検定試験は、基礎学力を客観的に測定・評価できる信頼性の高い検定試験として、中学校と学習塾を中心に普及し、開始後8年間で累計の申込者数が33万人に迫っています。

これまでは中学校卒業レベルを目安にレベル設定をしていましたが、2006年第1回より、『実用日本語 語彙力検定』に**高校中級程度を対象とした2級**が加わり、小学高学年から中学生だけでなく、高校生や大学生まで幅広く受検していただけるようになりました。

- * 実際の検定試験問題の一部や正答率、受検者数などの検定結果データは、生涯学習検定センターの URL <http://www.kentei-center.com/>でも詳しく紹介しています。
- * 実用日本語 語彙力検定の2008年度実施スケジュールは以下の通りです。学校や学習塾等の団体受検のみの実施となります。
第1回(通算第17回): 試験実施 6月29日(日)~7月15日(火) [申込締切 6月9日(月)]
第2回(通算第18回): 試験実施 11月23日(日)~12月8日(月) [申込締切 11月4日(火)]
- * より詳しい資料、問題集などの貸し出しは可能です。

5月1日は語彙の日

旺文社は、生涯学習三検定のひとつである『実用日本語 語彙力検定』にちなみ、日本記念日協会に5月1日を『語(5)彙(1)』の日として申請し、2007年2月に正式認定されました。近年、語彙力が低下していると言われる子どもたちに語彙力の大切さを認識してもらうため、今後『実用日本語 語彙力検定』のPRも兼ね、さまざまな企画を検討中です。



その第一弾として、5月1日(語彙の日)より、Web上で語彙力を試すことができる「にほんご WEB テスト」をスタートする予定です。

ぜひご期待ください。

「にほんご WEB テスト」イメージ



語彙力検定キャラクター
「ごいちゃん」

< 会社概要 >

社 名: 株式会社 旺文社
代 表 者: 代表取締役社長 赤尾 文夫
設 立: 1931年10月1日
本 社: 〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL: 03-3266-6400
事 業 内 容: 教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L: <http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当: 三澤・山縣
TEL: 03-3266-6292 FAX: 03-3266-6045 E-mail: pr@obunsha.co.jp